

柴北川プロジェクト通信 24号

— 第3回合同田植え会の開催 —

— 平成24年6月21日 —

ちょっと遅れて現地に着くと目を疑う光景が飛び込んできた。きれいに準備された水田の中に、その畔周辺に人、人、人、しかも喜々とした元気な子ども達で溢れている。どこからこれだけの人を集めたのだろうか、松巖寺一帯が新緑に包まれ元気に輝いて感じられる。それが第一印象であった。

今年も田植えの季節がきました。6月17日、「柴北川を愛する会」と「共助研」の合同田植え会が開催。今回は、この模様を中心にその後の昼食会、ミニコンサート、神楽演舞及び意見交換会を御報告します。



1. 合同田植え会

今年で3度目の合同田植え会。前日は台風が接近しているとのことで雨脚も強く、田植えに雨はつきものとは云え、果たして決行できるのであろうかと危ぶまれましたが、当日は雨もあがり薄日のさす田植え日和。「田植え会場入口」の案内表示を横目でみて現地に入ると、冒頭の通り人で溢れていました。背後には葉桜となった松巖寺裏の山桜がせまっています。

見知った人を探し挨拶を交わす。柴北川を愛する会の前会長の大塚さんもお元気そう。事務局長の

共助研

渡邊さんは、変わらない笑顔で皆に安心感を与えてくれます。先ごろ東北から戻ってこられた三浦隊長も、再び地元で活動を開始されている。共助研事務局長の波木さんは既に田圃の中、他の面々も。

「オーイ、笛!」、目印の付いたロープ（リード綱）を水田に張り田植えをリードする人が大声を発す。田圃の端から端、出だしの長いところは4～50mもあろうか、相当な距離である。ロープを張るのも、移動させるのも一苦勞。相手側に掛け声も届かない。そこで登場したのが笛である。受取った笛を吹く。すると皆一斉に後退し、ロープが張り直される。既に数列の苗が植わっている。地元の方々の手際の良さであろうか、初心者が多い割にはスムーズに田植えが進む。

それにしても今年は例年に比べ参加者が多い。後で知る、波多野さんの声掛けで大分市の小学生など親子連れが二十数名参加。地元の子ども達も大勢いる。実に壮観である。長いロープに隙間なく様々な衣装の老若男女が張り付いている。すでに泥混じりの子どもの姿もみえる。



ロープもつ手も、何時になく優しい



総勢50人を超す壮観な田植え会

やや遅れてきた親子連れが、その多さに驚きつつ遠慮勝ちに「加われますか？」と聞く。すると地元の方が「その長靴、短すぎる。素足、素足の方がいい、長靴は足をとられるから」と注意しつつ、「あの辺りが比較的すいている、あそこへどうぞ」と指差す。母親は戸惑いつつ、子どもは喜々として長靴を脱ぎ棄て田んぼの中へ走り込んで入り、列に加わる。その後も数組が新規参入。入れ替わった人もいる。腰が痛くなると引き上げてきた笑顔。

替わりにそれまで遠慮していた人が「やってこよう！」とこれまた笑顔を遺し田圃に入っていく。

こうして、かれこれ一時間を過ぎた頃だろうか、整然と植えられてきた田圃をみて、地元の人が笑い出す。「子供達は疲れてきたとみえ、早く終わらせようとしているんだよ。植える苗の量、厚さが最初と全然違うもん」と。確かに、列は概ね揃っているが濃淡がある。これも又、田植え体験の醍醐味であろうか、



大丈夫かな？



共助研



整然と植えられた水田・・・、と思いきや？

近くの機械植えの田圃と比較すると一目了然である。機械植えは横からみても、斜めからみても整然と並んでいるが、ここは、列はともかく横、斜めから見るとバラバラであり、濃淡もある。傾き加減なものもある。しかし、それが微笑ましくもあり、50人を超す人の手が加わった“力強さ・生命力みたいなもの”が妙に感じられる。

会場の水田は三角形気味である。終わりに近づくと狭くなる。一組抜け、二組抜けと徐々に田圃から上がってくる。子ども達は泥んこまみれ。その顔に笑みを浮かべ満足げである。それを見る大人たちも満面の笑み。終始、笑顔の絶えない合同田植え会であった。



田植会も終わりに近づくと、泥んこまみれの子供達

はじめての田植え 御苦労さま



田植えを終えた水田

2. 昼食会、ミニコンサート、神楽演舞

田植えを終えると各自、旧小学校体育館へ移動。昼食会場に入ると左側に野菜などの販売コーナー、その一角に東北のお酒が数種類ある。右側には柴北レディース手作りの御弁当や総菜類が豪華に並べられている。400円を支払い弁当と空皿を受取る。空皿には好きなものを好きなだけ溢れんばかりに盛り、小脇に抱え、再度会場を見渡す。正面舞台脇に矢ヶ部さんが座りギターの音を調整中。隣にピアノがある。会場中央部には、卓球台などを使ったテーブルが幾つも用意されている。その一角に木寺ご夫妻と同席し、楽しく会食。いつも変わらない美味で心温まるレディースの味である。この時ばかりは元気な子ども達も静かであったか、或いは会食に熱中し、その存在が飛んでいる。



昼食会場、右後方に柴北レディース手作りの美味が並ぶ



販売コーナーより舞台を望む



矢ヶ部さん、中川さんによるミニコンサート

最後の演目「川の流れのように」を参加者一同で合唱した。

暫くすると前方から優しい音色が流れてきた。ミニコンサートの開始である。シティボーイ矢ヶ部さんのギターの音色である。ピアノ伴奏は、今回は武市さんが欠席である、代わって中川さん。共助研に2名ものピアニストがいよいよとは驚きであるが、昼食会場は広く、しかも大人数である。お二人には大変恐縮であったが、ミニコンサートを堪能とまではいかず、「バックミュージックとして聞き流してもらえれば・・・」と予言していた矢ヶ部さん。その御人柄同様に優しい一時が、瞬時に過ぎていく。最

変わって登場したのが御当地・黒松神楽。笛、太鼓の心地よい響き、演奏者には見知った人もいる。神々しくも勇壮に舞う神楽に見とれていると突如、壇上から飛び降りた。獅子が子ども達を追っかける。キャーキャー逃げ廻る子、泣き出す子と会場が一変、騒然とする。奥豊後では、いつも見かける風景ではあるが、おかしくも楽しい。

「今秋の豊作は、これでかなった！」と隣席の木寺さん。

昼食会もひと通り終え、最後に司会進行役を務める事務局長の渡邊さんが、今回の参加者、団体を紹介。感謝、激励等々の挨拶を受け、第三回合同田植え会が終了。本当に楽しい一時を過ごさせて頂きました。準備に当られた柴北川を愛する会の方々、柴北レディースの皆さんに感謝、感謝です。本当にありがとうございました。

3. 意見交換会

今年も無事に終了。収穫祭での再会を誓いあい、元気な子ども達も帰っていった。後には、愛する会と我々共助研のメンバー。今後のことなど、意見交換会の開始である。進行役はチームリーダーの木寺さん。協議事項は、今後の恒例イベントを確認し、新規イベントの検討。さくら蕎麦は8月盆過ぎに蒔き秋に収穫、菜の花も来春、試験的に蒔いて頂くことが早々に決まる。これで秋の収穫祭、来春の山桜開花時が、また又楽しみである。

その他ネット販売の件、竹林整備と竹炭づくり等の懸案を用意された資料にそって協議。通販では中川さん、吉田さんの有難い助言、竹林整備等は竹セミナーに通う同僚濱田さんの専門的かつ丁寧な資料と説明。重要懸案は経済貢献、長谷の元気再生です。しかし、急がず無理なく。愛する会のメンバーの方々に検討頂き、地道に着実に進めていくことを確認。最後に愛する会の新旧会長の挨拶を頂き閉会。「実は俺、都市との交流に当初反対だった。が、今は良かった・・・」との秘話が大塚前会長流に披露され、愛する会メンバーの方々の御見送りを受けながら、共助研メンバーは一路福岡へ。

(文責 玉田、写真撮影 波多野、波木、玉田)



神楽演舞にハプニング、会場は騒然となる



昼食会後の意見交換会